

都市可視化に伴う地域振興策

～新しい地域自治システムへの準備～



玉名市役所企画経営部 地域振興課

i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

1

1.玉名市ってこんなところ

新しい地域自治システムへの準備

	沿革 平成17年10月合併 1市3町 (玉名市、岱明町、横島町、天水町) 地勢 玉名市は熊本県西北部に位置している。 南北：約17キロ 東西：約14.5キロ 面積：約152km² 交通 ・国道208号、国道501号 ・JR九州新幹線（新玉名駅） ・JR鹿兒島本線（市内3駅） ・近隣町：有明フェリー（長洲～島原） 高速道路（菊水IC） 人口 総数 66,239人 男性 31,662人 女性 34,577人 世帯数 27,983世帯 ※令和元年11月末日 現在
--	---

i-都市交流会議2020

2

2.活用場面①

課内での活用

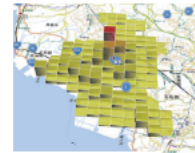
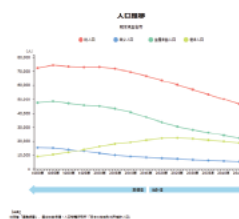


データ活用の重要性の認識

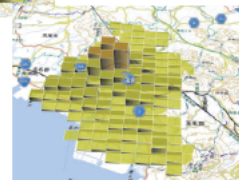
- ・都市構造可視化サイト
- ・RESAS
- ・地域経済分析ツール

人口把握

RESASでの平面的な動き→各地区での人口の動きをつかめるようになった



中心部が広がっていることを確認できる。



データに基づく、詳細な地域課題把握が可能となる。

都市構造の可視化は、ぼんやりとしていた都市課題を具体的に考えるツールになるのではないか。

i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

3

3.活用場面②

遊休不動産活用会議



産官学金が一同に会し、遊休不動産のあり方を検討



活発な意見交換のきっかけとなった

市内の遊休不動産（空き家・空き地）が社会課題化



現在はそれほど、高齢化は見られていない。しかしながら中心部と周辺部では格差が見える



市内全域で、高齢化が進行。中心部から離れたところの高齢化率が高い

i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

4

4.活用事例③

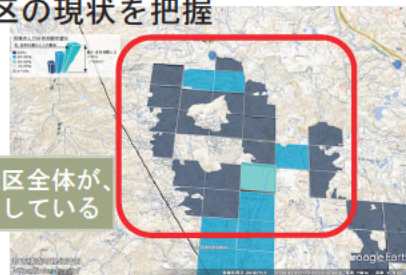
玉名市持続可能な地域自治づくり検討会議



ビジュアルと数値で把握することによって、深堀が可能となり、さらに各課横断的な情報共有をすることで、見えていない課題が浮き彫りになった。

国土交通省の人口予測システム
でさらに小学校区の予測を深堀

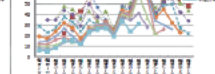
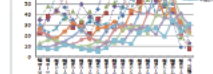
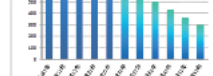
小学校区の現状を把握



小学校区全体が、
高齢化している

小学校統廃合地区の減少をグラフで把握

【三ツ川】 宜化率法・小地域毎



i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

5

5.コミュニティ施策の方向性

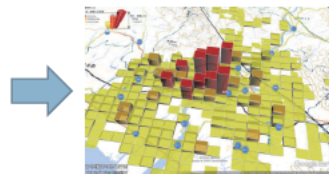
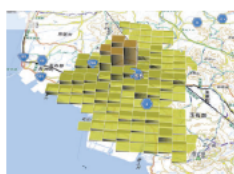
地域がどのようなになっているのか

役所は比較的人口の多い場所にあるために、地域がどのような状況になっているのか。肌身に触れることがない。しかしながら、都市構造を把握することでさらに深堀し、地域の課題を可視化できることは一つの成果であった。



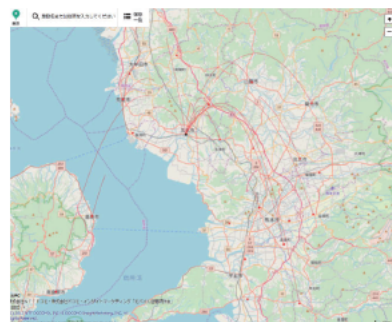
地元新聞に地元県立中学校の出願者急落を告げる記事が

■夜間人口と昼間人口の把握



赤くなっているところはすべて、高等教育機関（大学1校、高等学校5校）周辺であった。玉名市の活力は、高校生にあると判断できる。しかし、報道では不穏な情報が...！高校の魅力化事業へ

15歳～20歳の人口
移動（RESAS）



i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

6

6.見出し

都市構造可視化の可能性

1. 都市構造の把握

マクロ、ミクロに都市構造がインタラクティブに把握することが可能。

2. 住民主体の地域づくり計画に反映

住んでいる住民も、意外に自分の地域を把握していない。（うろおぼえ）

ワークショップのなかで、簡易に把握することが可能。多くの人たちとのコミュニケーションを取るツールとして活用が可能。

3. 職員研修

多忙な時間のなかで、職員が同じ場を体験することは困難→地図上とデータが重なることで、あたらな発見や、気づきを促すことができる。

i-都市交流会議2020

7

玉名市PR

都市の紹介



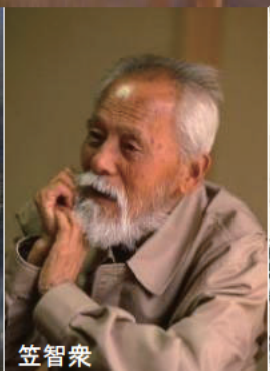
玉名温泉



玉名市から望む有明海、島原半島



夏目漱石



笠智衆



金栗四三



横島いちごマラソン&
いだてんマラソン

i-都市交流会議2020

8